

8. 心的外傷体験へのケア体制 ④課題と対応

地域精神保健医療従事者の心的外傷への適切な対応強化

- 医師、看護師、保健師、精神保健福祉士等に対して心的外傷への適切な対応のための研修および研修修了者の活用

- 地域精神保健医療従事者向けの心的外傷への適切な対応マニュアルの作成・普及

災害等時における適切な体制確保

- 広域、大規模、又は特異な災害や事件発生時に、機動的で適切な体制を確保するための組織等のあり方を調査研究を活用し検討

9. 睡眠障害への対応 ① 現状

- 睡眠によって休養が十分にとれていない人の割合

23.1%

- 眠りを助けるために睡眠補助品やアルコールを使うことのある人の割合

14.1%

(以上、平成8年度 健康づくりに関する意識調査
財団法人健康・体力づくり事業財団)

- 週に3回以上睡眠薬を使う人の割合

男 3.5% 女 5.4%

(Y.Doï et al.1999)

9. 睡眠障害への対応 ② 課題と対応

睡眠に何らかの問題を抱える者に対して適切な対応の普及・啓発

保健医療従事者の睡眠障害に対する対応技術の向上

- 国民に対する睡眠指針「睡眠12箇条」の普及

- 保健指導マニュアル(睡眠)の普及

- 一般医、睡眠専門医に向けそれぞれの指導マニュアル作成・普及

- 睡眠障害に関する研究の推進

(健康日本21)2010年までに睡眠によって休養が十分にとれていない人の割合、眠りを助けるために睡眠補助品やアルコールを使うことのある人の割合を1割以上減少する

10. 思春期の心の健康 ① 問題の現状

＜最近、特に注目される思春期児童等の心の健康問題＞

- 「社会的ひきこもり」について(保健所、精神保健福祉センター対象の全国調査)

※相談を受けたことのある機関 83%

※相談ケースの状況

10-20歳 28.2% 21-30歳 39.0% 30歳以上-18.8%

※「ひきこもり」の継続期間

6ヶ月-1年 17.9% 1-3年 26.3% 3-5年 14.7%

5-10年 15.6% 10年以上 8.6%

(H12 厚生科学研究事業)

- 「キレル」子どもの生育歴に関する研究

※「キレた」子どもの生育歴に関連する要因

家庭での不適切な療育態度 76% 家庭内での緊張状態 64%

友人からのいじめ 17% 学業面 18% 教師の不適切な対応 5%

(H13 文部科学省委託研究)

10. 思春期の心の健康 ② 事業、専門家等

- 厚生労働省：思春期精神保健対策研修事業
（平成13年度～）受講者数 431人
- 思春期ケースマネージメントモデル事業
（平成13年度～）7都県で実施

<専門家, 専門施設等>

- 日本児童青年精神医学会 2,407人(H14.6.20)
（精神科医 1085人 小児科医 145人 心理 644人 その他 533名）
- 日本児童青年精神医学会認定医 88人(H14.6.20)
- 小児科学会会員 17,500人(H14.3.31)
- 小児科学会認定医 12,063人(H14.4.24)
- 全国児童青年精神科医療施設協議会施設
10施設、オブザーバー施設10施設

10. 思春期の心の健康 ③ 課題と対応

児童思春期の心の
専門家の充実

- 医師、看護師、保健師、精神保健福祉士等に対して心の問題を抱える児童思春期への適切な対応のための研修および研修修了者の活用

- 専門家の増加等、児童思春期精神医療の実施体制の充実

地域における心の問題
を抱える児童思春期に
対する対応の充実

- 地域における児童思春期の心の問題を扱う関係機関の連携推進
(思春期ケースマネジメントモデル事業事例集作成)

11. 精神保健医療福祉施策の評価と計画的推進

- 精神障害やこころの健康問題についての有病率等の把握
 - ・ 精神障害者社会復帰サービスニーズ調査（平成14年度）の実施
 - ・ WHOの進める国際的な精神・行動障害の疫学共同研究プログラム（World Mental Health 2000）に準拠した疫学調査研究の推進

- 地域及び国全体でみた精神保健医療福祉の水準を評価する手法（指標等）の開発。
 - ・ 評価手法の開発のため、調査研究を推進。

- 評価のために必要な情報収集体制を整備し、本計画の進捗状況を定期的に評価。
 - ・ 計画開始後、進捗状況を定期的にとりまとめ、本分会に報告。